

本年度、6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、分析結果から考えられる「栗南っ子」の特徴や成果と課題についてお知らせいたします。

## 成果が現れている項目

## 国語

- ◎段落相互の関係に注意して、文章の構成を考えること。
- ◎目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

## 課題となる項目と支援策

△文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。

- 💡各段落の働きをていねいに確認し、キーワードやキーセンテンスをもとに要旨をまとめながら文章の構成を捉えていきます。

- (2) 「本村さんのメモ」の「イ」に当てはまる内容として最も適切なものを、「資料3」を読み、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。
- ① 時代とともに言葉の意味が変わる。
  - 2 時代とともにものの使い方が変わる。
  - 3 世代によってものの呼び方が違う。
  - 4 世代によって言葉の使い方は変わらない。

「本村さんのメモ」

言葉の変化について分かったこと

「あたらしい」は新しい形

(奈良時代) あたらし (平安時代) ア あたらしい (今)

時代とともに言葉の形が変わる。

とても書ける？できない？

(室町時代) どうせ (大正時代より前) (今) 非常に

イ

△目的に応じて、文章と図表等を結びつけるなどして必要な情報を見つけること。

- 💡図表等の資料を読み取る力を伸ばすために、説明文等に付随する図表や他教科で用いられる資料が何を指し示しているのかを話し合います。また、文脈に沿って、次はどのような言葉が続くのかを考える活動を取り入れていきます。

- (1) 「話し合いの様子」の「A」に当てはまる内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。
- 1 「資料1」の部①
  - 2 「資料1」の部②
  - ③ 「資料1」の部③
  - 4 「資料1」の部④

三 本村さんは、言葉の変化について田中さんと話し合いながら、「資料1」を読み返しています。次の「話し合いの様子」をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

【話し合いの様子】

「ぼくが読んだ二つの資料（「資料2」「資料3」）には、言葉が変化していることが書かれていたよ。『資料1』に「言葉の正誤を軽々しく決めることはできない」と書かれているのよ。」

【資料4】

私は、この資料（「資料4」）を見つけたよ。これを見ると、世代によって、「雨模様」の意味のとらえ方にちがいがあって、分かりますよ。

本村さん 本村さん 田中さん 田中さん

「雨模様」の意味のとらえ方

世代	雨が降りそうな様子	小雨が降ったりやんだりしている様子
16-19歳	50.6	31.9
20代	43.5	42.9
30代	53.7	36.1
40代	53.8	23.4
50代	61.2	20.1
60代	52.6	33.6
70代以上	56.2	39.8

（文化庁「令和4年度国語に関する世論調査」による。）

「こんなふうに、人によって言葉の意味のとらえ方がちがうと、伝え合うときに困ると思うよ。だから、『資料1』に「A」と書かれているのよ。」

本村さん 田中さん

## 成果が現れている項目

## 算 数

- ◎基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述すること。
- ◎異分母の分数のたし算の計算をすること。

## 課題となる項目と支援策

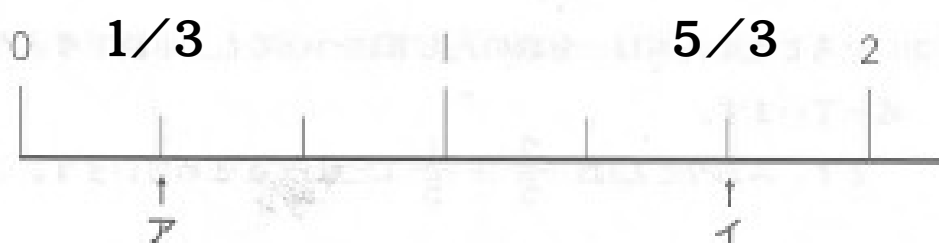
△分数のたし算について、共通するもとにする数を見だし、足す数と足される数が、共通するもとにする数のいくつかを、数や言葉を用いて記述すること。

💡通分をとまなうたし算の計算はできている。しかし、通分に関する理解が不足していると考えられる。そこで、通分の仕組みや仕方を学ぶ際、ペアや全体の場でしっかりと説明する活動を取り入れます。

△数直線上で、分数を単位分数のいくつか分として捉えること。

💡分数の意味に関する理解が不足していると考えられる。1を○個に分けた□個分が□／○であることを図や数直線を用いながら学習します。

(3) 次の数直線のア、イの目もりが表す数を分数で書きましょう。



(2) ひろとさんたちは、分数のたし算についても、小数で考えたようにふり返っています。

まず、みおりさんは、 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$  についてまとめています。



$\frac{2}{5}$  は  $\frac{1}{5}$  の 2 個分、 $\frac{1}{5}$  は  $\frac{1}{5}$  の 1 個分です。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$  の計算は、 $\frac{1}{5}$  をもとにすると、2 + 1 を使って考えることができます。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$  は、もとにする数を  $\frac{1}{5}$  にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

次に、ひろとさんは、 $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$  について考えています。



$\frac{3}{4}$  は  $\frac{1}{4}$  の 3 個分、 $\frac{2}{3}$  は  $\frac{1}{3}$  の 2 個分です。

もとにする数が  $\frac{1}{4}$  と  $\frac{1}{3}$  でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$  についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にすると、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$  はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$  はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

## 成果が現れている項目

## 理 科

- ◎乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いていること。
- ◎水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解していること。

## 課題となる項目と支援策

△身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いていること。

💡実験において正確な結果が得られるように、実験準備や事前指導をしっかりと行います。また、AIドリル等を活用し、知識の定着を図ります。

(1) アルミニウム、鉄、銅の性質について、下の 1 から 4 までのの中からそれぞれ 1 つ選んで、その番号を書きましょう。同じ番号を選んでもかまいません。

- 1 電気を通し、磁石に引きつけられる。鉄
- 2 電気を通し、磁石に引きつけられない。アルミニウム・銅
- 3 電気を通さず、磁石に引きつけられる。
- 4 電気を通さず、磁石に引きつけられない。

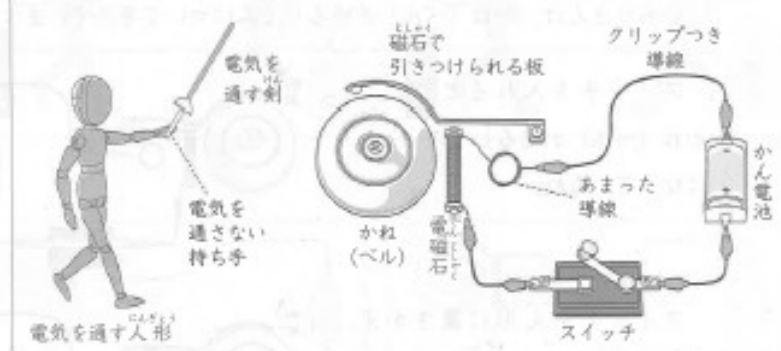
てつやさんといおりさんは、これまでに学習した電気の性質を利用して、フェンシングのおもちゃをつくることのできないか、話しています。



自分の剣を相手に当てたとき、かね（ベル）が鳴り、得点を知らせるようにしたいね。



これらの物を使ってつくることはできないかな。

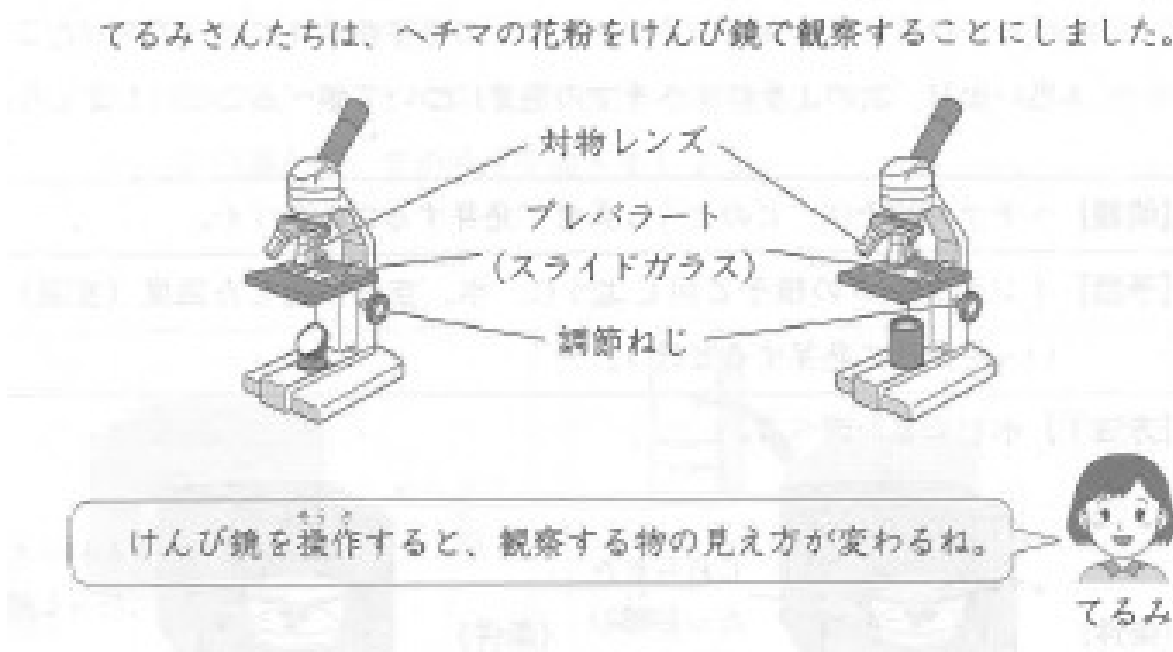


電気を通す剣や磁石で引きつけられる板を、アルミニウム、鉄、銅のどれでつくろうかな。

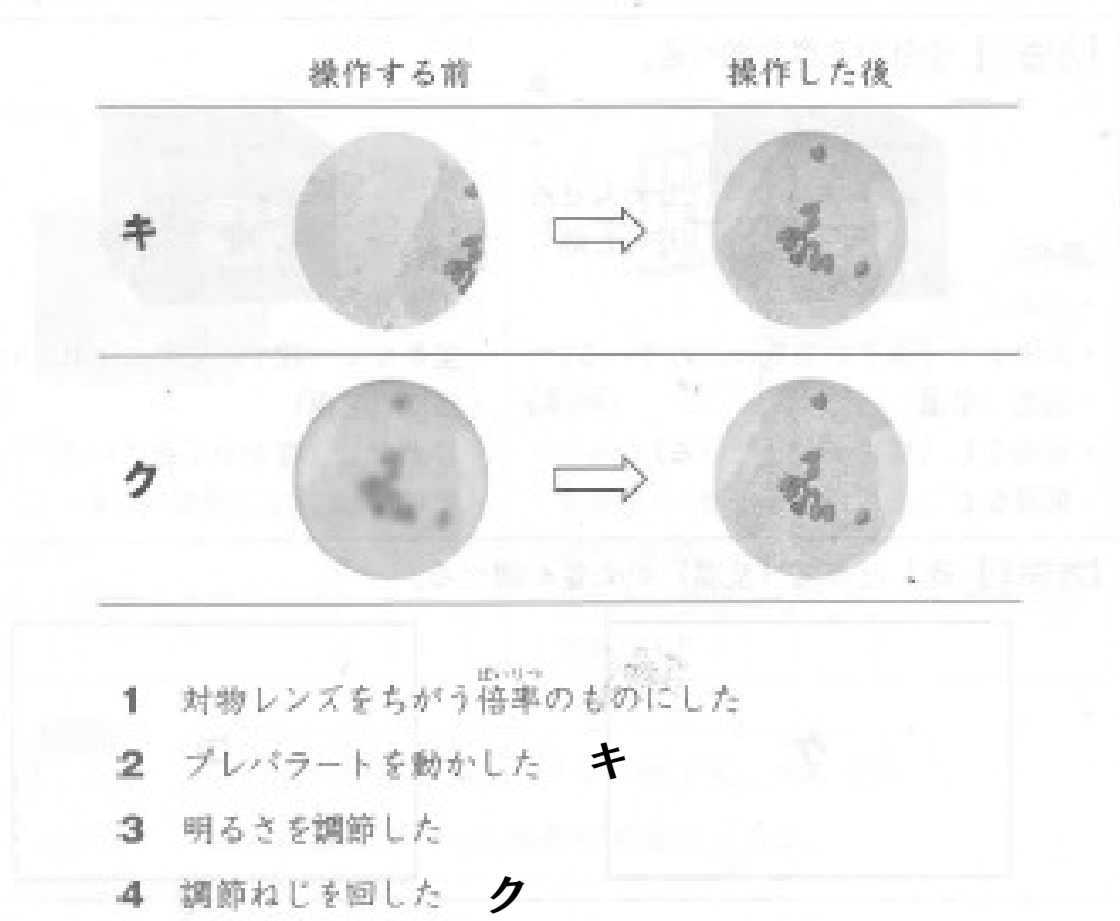


△顕微鏡を操作し、適切な像にするための技術が身に付いていること。

💡顕微鏡の操作や観察に関する学習は、グループでの教え合いを通して、一人ひとりが確実に操作できるようにします。また、その中で、顕微鏡の部位の名称を使って取り組むようにします。



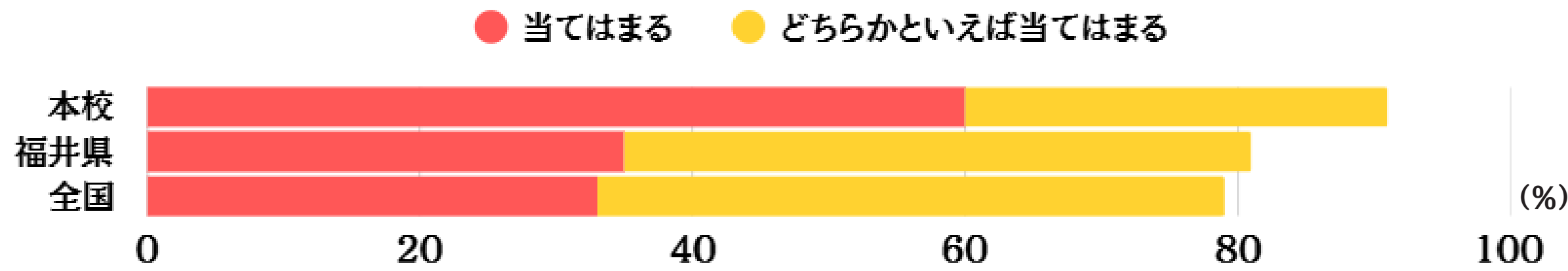
(2) けんび鏡を操作したとき、キとクのように、操作する前と後で見え方が変化しました。キとクはどのような操作をしたのか、下の1から4の中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。



成果が現れている項目

質問紙調査の結果から

◇自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。



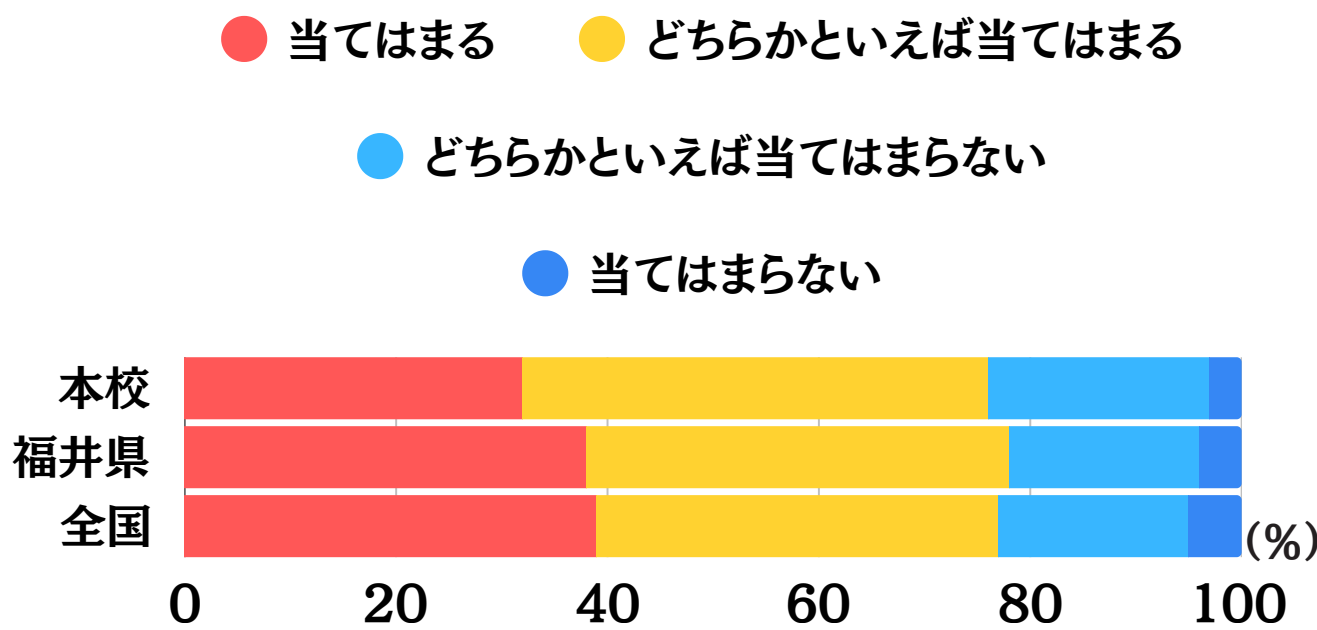
◎ペアやグループでの話し合い活動を通して、友達の異なる考えを聞く機会を充実させ、協働的な学びを多く取り入れていきます。また、それらの活動を通して、多様性を認め合う集団作りに取り組んでいきます。

課題となる項目と支援策

◇情報活用に関する質問の回答 ● ● の合計

ICT機器で文章を作成できる	88%
インターネットで情報を収集できる	96%
ICT機器を使って情報を整理できる	88%
ICT機器を使ってプレゼンテーションを作成できる ※	76%

左表※の詳細を表したグラフ



◎PCやタブレット等のICT機器を用いた情報活用に関する質問3つ(表の上から3つの項目)に対する肯定的な回答は9割前後となっています。しかし、「ICT機器を使ってプレゼンテーションを作成することができるか」の回答から、4人に1人は苦手意識があることが判明しました。そこで、児童の興味・関心に基づいたテーマに沿って、情報を集め、文章や資料にまとめる活動の中にプレゼンテーション作成を取り入れて、全員のプレゼンテーション力の向上を図ります。その取り組みを探究学習の活動の一部として位置づけていきます。